

住

愛知県建具協同組合

伝統を生かし

新しい建具を創造

建具製作が 2020 年に ユネスコの世界無形文化遺産

名古屋でものづくりが発展したのは、江戸時代に木曾川で運ばれた良質で豊富な木曾の木材によってさまざまな産業が興ったからだといわれています。その業種の一つが建具屋(当時の呼び名は戸屋)です。

建具とは引き戸、障子、襖^{ふすま}など部屋の仕切りとなる開閉式の設備です。日本では弥生時代の遺跡から1枚板の開き戸が見つかっています。やがて建具は家に付随する機能と同時に装飾的な面を持つようになりました。長年にわたり培われてきた匠の技を使い、今では従来の建具の範疇を超え、下駄箱、座卓^{あんどん}、行燈などもつくられています。

令和2年(2020)、ユネスコ(国連教育科学文化機関)世界無形文化遺産に日本の「伝統建築工匠の技：木造建造物を受け継ぐための伝統技術」の17分野が登録されました。「建具製作」もその中に含まれ、古くから継承されてきた技術の価値が世界に認められました。

学生や異業種とのコラボで次々と新しい作品

現在の組合が発足したのは昭和34年(1969)で



組合事務所2階の展示コーナーに飾られている「建具」。中央にあるのは学生とのコラボで全国建具フェア愛知にて林野庁中部森林管理局长賞を受賞した靴箱



框(かまち)組ガラスドア(左)と学生とのコラボの「言の葉とびら」(右)

すが、母体となった名古屋建具組合が創立したのは昭和10年(1935)です。当時の日本経済は不況の中にあり、労働争議が多発していたため、約600名が参加して働く者の権利を確立するためにつくられました。その後、幾たびの変遷を経て平成15年(2003)に現在の名称に変更しました。組合員数が最も多かったのは高度経済成長期の昭和45年ころで約1,000事業者が加入していましたが、現在は約80事業者です。減少の理由は住宅様式の変化でアルミ製の建具が増えたことが大きな要因です。

こうした中、令和元年(2019)に「明日へと、挑む匠の、知恵と技!!」をテーマに全国建具フェアを愛知県で開催、名古屋芸術大学の学生や中部日本デザイン協会のデザイナーとのコラボで、プロジェクトマッピングを利用するなど斬新なアイデアによる数多くの作品を展示しました。機能的で美しい上に防災や福祉、環境などを考え、伝統的な建具の新たな発見を目指しています。

■職種：建具職 ■組合設立年：昭和10年 ■組合住所：名古屋市中区尾頭橋4-13-6

■電話：052-331-2837 ■ファックス：052-322-1770 ■ホームページ：<https://aichi-tategu.or.jp/index.html>